

2024年11月22日作成

2024年度（令和6年）

学校関係者評価委員会議事録

学校法人石川学園

横浜デザイン学院専門課程

評価対象年度2023年度（令和5年）

開催日時 2024年9月14日 15:00~17:00

場所 学校法人石川学園横浜デザイン学院 211教室

外部委員数 3名

<出席3名>

花井 秀年 DOORS合同会社 代表社員

羽田 宜弘 ウェイズリンクス株式会社代表取締役

片野坂達也 卒業生(2013年3月卒業)

<欠席1名>

山口 禎子 山口会計事務所 公認会計士 石川学園理事

内部委員 8名

<出席9名>

池田 俊一 横浜デザイン学院学院長

寺内 有紀夫 同副学院長

志村 信生 同戦略企画部 統括部長

平澤 毅 同法人本部 課長

横坂 仁美 同キャリアサポートセンター長

廣田 洋平 同高等課程長

佐久間みのり 同日本語学科教務主任

杉崎 雄一 同総合日本語科主任

佐々木 渉 同日本語研究科主任

1) 池田学院長の挨拶

現在石川学園を取り巻く外部環境が変化している中、日本語教育機関認定法が制定され、入国管理局向けの事務作業、カリキュラムの設定などやるのがかなりある状況で、日本語学科の先生達が対応している。教務と募集、在籍管理、進路、入管業務を統合した組織編制をおこなっている「JUKU」を立ち上げた。日本語学科の先生達をメインに構成されており、まだ滑り出しではあるが、良い組織構造に育てていきたい。大学の就職率が高くなっており、専門学校危機を感じておりキャリアサポートの充実を図り、就職率100%を目指している。幼稚園の方も変化があり、給与体系を変えた。これにより幼稚園の質をあげ、専門学校と幼稚園の車の両輪の如くぶれない軸で前に進めていきたい。

2) 在籍状況と卒業生の進路状況について（志村・横坂）

志村より、在籍状況について別途資料をもとに説明。

- 在籍状況は現況に報告したものは高等課程85名、専門課程187名、日本語学科189名で合計461名でした。
- 交付率は8割の状況と報告しています。(志村)
- 卒業生の進路状況について報告。就職の希望者の就職実績は97%となっている状況。関連分野に絞ると60%となり昨年比では20%ダウンという状況になっております。専門課程で3名の退職者の報告があった状況で、卒業生からの相談やサポートをおこなっている。

横坂より、就職状況について別途資料をもとに説明

- ファッションのテキスタイルの営業で全国を常にまわっている過酷な環境であるが、いまは店舗の方で販売の仕事をしている。
- 今後もインターンシップ、企業訪問、外部の就職イベントなど積極的に参加していく。
- 日本語学科の学生の就職の実績も増えている。高校生も若干はあるが就職希望があり、今年は2名いる状況で、近日に面接を控えている。
- 9/30に外部講師を招き、一般の方も参加可能な講座を予定している。

3) 2024年度 学校自己点検の評価について説明

項目1. 教育理念・目標について（志村）

- 資料に準じて説明。1-1～1-5に関して値の変更はない。NEXT25 MIRAI 会議というものを毎週開催しており、中長期的な運営を目指した話し合いの場を設けている。(志村)

項目2. 学校運営について（平澤）

- 昨年からの評価点の変更はほぼない。校務システムについて説明
- 使用する職員の習熟度にバラつきがあるので、勉強会や機能説明のメールなど配信し、習熟度の底上げをおこなっていく
- AI を利用した業務のやり方も研究を進めたいと考えており、法人本部主導で職員の働き方改善・効率化を進めていきたい。

項目3. 教育活動について（寺内）

- 評価点に変化はない。WSDB を介した情報の共有はかなり進んでおり、情報取得のバラつきはかなり改善してきていると感じている。
- 産官学連携の報告書の充実と共有を体系化し、就職を目指したインターンシップも実践体験していくことを考えている。
- AI という流れにたいして授業にどう取り込んでいくか、落とし込んでいくかを講師たちと考える必要がある。

項目4. 学修成果について（寺内）

- 評価判断基準、スケジュール設定が明確でないことが課題と考えており、改善策としては専任教師と非常勤講師と積極的なコミュニケーションを促進し改善を図っていく。
- 学生生徒の習熟度に対する情報共有も重要である。

項目5. 学生支援について（寺内）

- 評価が上がった項目、下がった項目がある。
- 高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育などの取り組みが十分できていないことが課題と考えている。
- 将来を見据えて計画を可視化し、教務と広報で連携し課題解決に取り組んでいく。

項目6. 教育環境について（平澤）

- ICTを利用した教育を実践していくためのネットワーク利用環境は充実していると考えている。教職員と学生に無線LANのネットワーク利用アカウントを配布して、学内で自由に使えるようにしている。
- 教職員や学習指導のための訓練や避難訓練を実施することができており、コロナ過時よりは評価が上がった。
- 老朽化した備品、学校設備の更新、特に分電盤が老朽化しており、新しく取り付けるという大規模な修繕を実施しインフラ部分の充実を図った。
- 地震や災害の対策に備えるべく、委員会も設置し災害時の対策や対応マニュアルを整備していく。

項目7. 学生の受け入れ募集について（志村）

- 総合デザイン学科は定員60名に達したが、内訳ではファッション科は少なかった状況。
- 留学生対象の総合日本語化は20名の定員変更をしたが充足はしなかった。
- 引き続き日本語教育機関のネットワークを活用し、入学希望者のニーズは学力の事前把握など募集活動をきめ細かくおこなっていく。
- 募集要項も内容変更し「外国につながる生徒」の受け入れを継続・積極的におこなっていく。
- オープンキャンパスの来場者増加をめざし、SNS など情報発信をおこない、ブランド化を確立する取り組みをおこない募集活動の改善をおこなっていった。

項目8. 財務について（平澤）

- 会計監査、財務に関する情報公開は毎年実施している。
- 令和5年度の決算では、石川学園全体で黒字となった。監査も適切に行われた。
- 物価上昇の影響による支出増加傾向が課題と考えている。
- 物品購入は内容と価格を数社から取り寄せ適正な価格を選定し採択するよう努めていく。
- 教職員のコストに対する意識を身に付けてもらうため既存の仕事の仕組みやルール見直し活動を始めている。
- Windows10 のサポート終了による端末の台数が数十台あり入替のための購入がかなり高額になると予想しています。

項目9. 法令等の遵守について（平澤）

- スコアは変わっておりません。
- 引き続き活動を展開していきます。

項目10. 社会貢献・地域貢献について（平澤）

- 引き続き学生のボランティア活動など内容を充実させており、昨年と評価は変わらないと考えております。
- 戸部駅周辺の清掃活動など地域貢献をおこなっており、地域住民から感謝の声も頂けている状況です。
- 地域に愛される学校を目指し学院長主導でおこなっている。職員も毎朝おこない身の回りの環境整備に努めている。

項目11. 国際交流について（志村、杉崎）

- 専門課程も留学生を受け入れている。
- 外国人の獲得に関しては国同士の競争にもよるが、日本を好きになってもらう活動にも力を入れて情報を発信していきたい。
- 国際交流について留学生の国際交流をおこなっている、地域コミュニティと英会話教室などじっし積極的にボランティア参加している（杉崎）

4) 外部委員からの自己評価に対する質問と回答、意見等

<外部委員・意見質問>

ある地域の学校関係者の集まりで、洞察力や道徳などの能力不足は学校あるいは家庭のせいかとの質問に対して、家庭のせいとする回答が9割に上ったという話がありました。さまざまな理由や状況もありますが、まずは学校側が自身の責任だと認識することが重要だと考えます。横浜デザイン学院は一燈照隅という教育理念を掲げていますが、その教育理念はどのように学生に伝えているのでしょうか。

<学校側回答>

学院長は人間力の成長を重視しており、高等課程には人間学の授業を設置しています。専門課程では、授業の中で社会性や人間関係の学びをカリキュラムに取り入れています。例えば、グループワークでは人生観・価値観の違う人たちが集まり、うまくいかないこともあります。その際には学生と話をして、人との関わり方や洞察力の重要性について伝えています。これは、クリエイターとしてのデザイン思考にもつながるものと考えています。

<外部委員・質問意見>

FSSC、BCPの要件、震災の停電、物流の停滞、生産手段をどうするか。YDCはパンデミックがBCPに関わってくるかと思っている。留学生の募集や入国が滞ったときにどう対応していくのか。少子高齢化や不登校の問題へのどのような取り組みをしているのか。

<学校側回答>

パンデミックなど不確実性を想定しNEXT会議で取り上げている。YDCは高等・専門・日本語と課をいくつか設けているので一本足にはならずバランス維持には適している環境と考えている。

不登校などの問題は留学生の対応がヒントになるのではないか。

目標をいかにもってもらうか、今後どうしていくかはまだ詰められていない。

発達障害児に関しては幼稚園で引き受けられる体制を考えている。職員に専門資格がいるので、どう導入するかも合わせて検討している。

<外部委員・質問意見>

学費の値上げで影響はあったのか。留学生に関してはどうか。関連性分野の就職率が下がった背景はあるのか。企業連携の成果について教えてほしい。

<学校側回答>

学費値上げについて広報活動を通して理解いただくことを目指している。

就職率の低下は、就職する際の優先順位、条件、職種、何ができるのか、専門分野での指導準備が足りていないと感じている。業界の求められるレベルと学校2年間で習得できることに限界がある場合もある。就職するというところに重点が置かれる。学生数の多いマンガ科の就職先は派遣であることが多く、低下に影響していると感じている。また学生も就職に関しては自分でハードルをあげて進めていない傾向があった。マンガ科は「漫画家」を目指すケースがあるが、正社員というものがいないため、就職率の上昇にはあまり影響しない。

企業連携をすることで自分が学んでいることがどう活かされるのか、企業のレベルがどうなのかを把握するきっかけになっている活動になっている。企業訪問で学校に興味をもってもらい企業を増やし学生へ展開していきたい。

<外部委員・意見質問>

Photoshop で AI を使用しているが、まだ脅威には感じていない。しかし時間の問題とも感じている。AI を使うことは避けて通れない気がしているが、どう学生へ授業展開をしていくのか。

デザイン業界は定時であるが、残業、休みが取れるのかなどブラックが多いが、昔はよく聞かされていたが、今の子ども達にそれを教えるのか。

<学校側回答>

AI はどう使えるのか、目的にあった使い方などを教えていきたい。業界の体制や現状などはきちんと伝えていきます。今後より具体的に活用することをカリキュラムに組み込むことは必要ととらえている。

5) まとめ (池田)

本日は貴重なご意見ありがとうございました。まだ一般の仕事においては、人の倍は働かないと仕事を覚えなかったり成果を出せなかったりする現状もある。教職員の仕事のバランス、働き方改革は必要と考えている。現代の仕事ではバランス感覚が必要であると強く感じています。これらが育まれる学校教育を目指していきたい。